



仙 崖 六 歌 仙

鼓が寄るほくらが出来る 腰曲る

あたまは禿げる 髭白く赤る

手は震う 足はひびつく 歯はぬける

耳は聞えず 月はうとくたなる

身に添うは頭巾襪巻杖 めがね

夫人は温石 しゆびん 孫の手

聞きたがる 死にも赤がる 淋しがる

心は曲る よく深く赤る

くどく赤る 氣短かに赤る 悪疾に赤る

出しやばりたがる 世話やきたがる

またしても同じ話 孫ほめる 達者自慢

人は嫌がる

雲洞庵 新井石龍



○仙崖義梵和尚

筑前臨濟宗

聖福寺住職

天保八年（一八三七）

八十七才で他界。

徳高く

普門円通禅師と

慕われる。

○新井石龍大和尚

越後六日町在

雲洞庵住職

京都帝大出身

各地を講演して

歩かれた。

昭和五十九年

九十六才で他界さる。